

小学校保健体育教育 実技研修会 終了報告

テーマ	ゴール型授業の進め方	
日時	平成28年 7月 14日(木)	
会場	北広島市立西の里小学校 体育館	
講師	小野寺 隆彦氏 金井 一哉氏 (エスポラーダ北海道 監督) (エスポラーダ北海道 コーチ)	
参加者	56名	
研修会 の 様子		<p>はじめに、ボールを持って自由に移動した。これは、けることが苦手な子どもたちにもスペースを見つけながら走るという感覚をつかむのに有効な手段であった。そのあとボールを上に向けて投げたり、ジャンプしてキャッチしたりとボールを足で扱うのではなく、手で扱いながら、徐々に慣れていった。</p> <p>次にボールタッチ。左右の足でだんだんと速くできるようレベルを上げ、最終的にドリブルで移動をした。</p>
		<p>監督自らが、経験の少ない子や、ボールを蹴るのが苦手な子どもなども楽しく体を動かせる方法と、モチベーションの上がるような声かけの仕方についてお話してくれた。競技のトップに立つ方のお話にて、参加していた先生方もしっかりと耳を傾け、真剣に聞いていた。</p>
		<p>ボールにある程度慣れたところで、スペースを決め、相手のボールを蹴って外に出すというゲームを行った。これまでの流れの中で行った、「顔を上げ、周りをよく見る」「ストップする」「ボールタッチを素早く行う」などのポイントが、この場で生かされ、どの参加者も楽しく運動していた。</p>
		<p>ボールを蹴る運動の面白さの一つに「シュートすること」があげられる。しかし、ドリブルの苦手な子にとっては、シュートまでなかなかたどり着けないことも。ここでは、ボールを持って川をジャンプで跳び越し、その後ボールを落とし、思いっきりシュートした。</p> <p>実際に体を動かしながら参加することで、少ない時間の中でも、多くの指導のポイントを学ぶことができた。</p>